

神戸新聞読者クラブ

奥さま手帳

毎月、兵庫を再発見。

2010年
4月号
NO.441

春です、スイーツ満開。



いくつ言えますか、
兵庫のゆるキャラ。



名人 教えて！

4



川邊さんは谷川俊太郎の絵本「あいうえおうた」を使い、ウォーキングしながら发声練習も。

会話のヒントは「きみにはなしたい」。

覚えておきたいキーワードは、[き]共通項・季節、[み]見た目(服装・景色)、[に]ニュース(家族・地域行事)、[は]流行(話題のお店・マイブーム)、[な]仲間・知人のこと、[し]趣味・スポーツ、[た]旅・食べ物、[い]生き方・健康法など。



言語学者の外山滋比古さんは「ひょうごこのこころ」の中で、「マイフェアレディ」は言葉の大切さを教えていると書いています。川邊さんもお薦めの作品。

【言の葉OFFICEかのん】代表
川邊暁美さん

1987年NHK神戸放送局ニュースキャスターを経て、兵庫県広報専門員、話し方・ビジネスマナー講師など幅広く活動。2008年【言の葉OFFICEかのん】開設。フリーアナウンサー、神戸女学院大学非常勤講師。

【川邊さんのセミナーの予定】
西宮で「心を伝える朗読の世界」の講座、神戸で「想いを伝える話し方」の講座など、詳細はHPを。
<http://www.kotonoha-canon.com/>

心を伝えるためには声や表情のちよととしたテクニックもある。「いつもより少し大きな声で、笑顔だと相手に分かるように口角を上げ、気持ちを込めて」。大切な人に話すように語りかけ、相手に届くように工夫することで、コミュニケーションはより豊かになる。「言葉を磨くことは自分を磨くこと。自分の声や言葉で伝えられる力は生きる力につながります」。

心に響く人には温かい言葉で話すということ。「相手への思いやりや必要な言葉を届け、思いを共有する。そんな言葉のキヤツチボールが会話の基本です」。

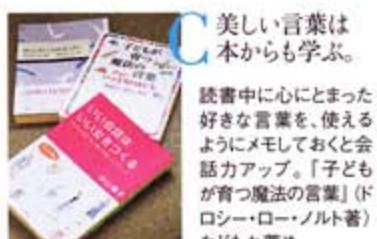
会話のマナーの基本は、相手に開心を持って、相手中心に話をふっていくこと。「言葉といふように言葉には魂がこもっています。声と言葉は一人ひとりの宝物です」と川邊さん。



言葉と感性を磨いて 心に響く話し方を学ぶ。

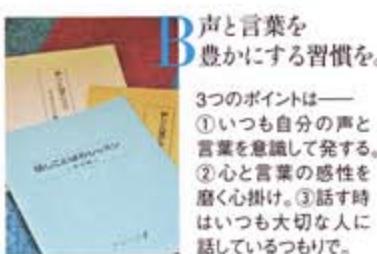


[ご]ちらから、[え]がおで、[で]きるだけ明るい声で、[あ]いてに届くように大きな声で、[く]ふうして(相手の喜ぶプラスαの一言を加える)。[しゅ]うかん。



読書中に心にとまつた好きな言葉を、使えるようにメモしておくと会話力アップ。「子どもが育つ魔法の言葉」(ドロシー・ロー・ノルト著)などもお薦め。

豊かな会話のために実践したいテクニック。



3つのポイントは——
①いつも自分の声と言葉を意識して発する。
②心と言葉の感性を磨く心掛け。
③話す時はいつも大切な人に話しているつもりで。



聞き上手のポイントは視線→相手と目線の高さを合わせ、優しい目で。表情→開心を示す表情、笑顔を向けて。態度→うなずき、相づちを打ち、前傾姿勢で聴く。